

地域ケア会議の立ち上げ
～ まずは、初めてみる ～

<岡山県 鏡野町>

鏡野町の概要

鏡野町は岡山県の北部、鳥取県の県境に位置

○人口:12,739人 うち65歳以上の人口4,753人

○高齢化率:37.3%

○要支援・要介護認定率:18.3%

○面積:419.68Km² (岡山県で7番目に広い市町村)

○第7期介護保険料6,400円

○日常生活圏:2圏域

○地域包括支援センター:1箇所

○町の特徴

主な産業は農林業 観光では、美作三湯のひとつ「奥津温泉」。

鉄道はなく、交通手段は路線バスと自家用車



鏡野町の取り組み

平成29年4月から新しい総合事業へ移行

通所介護サービスA

かがみのマッスル道場

高齢者は加齢や病気、また膝や腰の痛みで活動量が少なくなります。そうすると、なお一層動くのがおっくうになり、不活動な状態が続き筋力低下を起します。

その結果「座る」「立つ」「歩く」という日常生活が困難になり、転倒の危険も高まります。マッスル道場は日常生活動作の改善、転倒予防を目的とした筋力強化運動を行います。



運動能力測定



運動能力測定を行い、現在の身体状況を確認します。

筋力強化運動

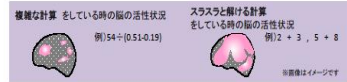


能力に合わせて無理なく筋力アップ運動を行います。

脳トレ教室「知恵の和」

くもん学習法の教材を使用し、読み書き・計算を繰り返し学習することで、認知機能の維持・改善と認知予防を図ります。

学習療法といっても難しいものではありません。脳の研究により、難しい問題解いている時よりも、文章を音読している時、スラスラと解ける計算をしている時、人とコミュニケーションをとっている時の方がより多くの脳の領域が使われることがわかっています。



そして脳を活性化させることは認知症の予防・改善にも繋がります。この脳トレはその研究結果に基づき、高齢者のための専用の教材により、楽しくコミュニケーションをとりながら、認知症の予防・改善を目指す学習療法です。

生きいきの湯

自宅で自立した入浴が困難な方に、個々の状態に合わせた入浴の自立を目的とした支援を行います。

ご利用者自身の力で入浴できるようにお手伝いをします。自分で安心して入浴できるようにしていきましょう。

どんなお風呂?



※ご利用期間について※

ガンバランドかがみの各事業(マッスル道場・知恵の和・生きいきの湯)は概ね6か月が目安となります。ただし、その後も利用することが必要である場合は、継続・再利用もできます。改善が認められた場合は、ハツツサークル・サロン・趣味の会等でこれからも元気に活動をしていきましょう!

ガンバランドかがみの

『ガンバランドかがみの』は介護予防と日常生活を支援するためのサービスです。

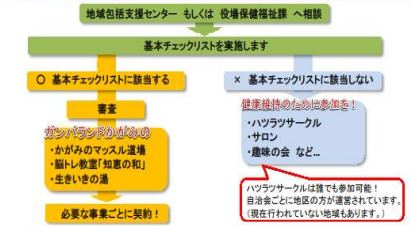
対象者

- ・ 要介護認定で要支援1もしくは要支援2の方
- ・ 65歳以上で、基本チェックリスト該当の方

基本チェックリストとは

本人の生活状況や自身の健康状態を確認する調査票です。

お申し込みの流れ



サービス

かがみのマッスル道場 運動機能低下の防止と改善	脳トレ教室「知恵の和」 認知症の予防と改善	生きいきの湯 入浴が困難な方の入浴支援
【利用料】 1回 300円	【利用料】 月 2,000円+税	【利用料】 1回 100円
【開催場所】 各地域福祉センター (鏡野・奥津・上野原・富)	【開催場所】 各地域福祉センター (鏡野・奥津・上野原・富)	【開催場所】 各地域福祉センター (鏡野・上野原・富)

※休みの日時等の場合はキャンセル料をいただきます。

送迎	送迎があります。
昼食	鏡野と上野原では一日を過ぎてサービスを利用される方で、ご希望があれば昼食を提供しています。昼食代は実費負担となります。
お問い合わせ先	鏡野町社会福祉協議会 地域包括支援センター TEL (0868)54-2984 FAX (0868)54-0505
	鏡野町役場 保健福祉課 介護保険係 TEL (0868)54-2986 FAX (0868)54-2891

事業にエントリーした理由

地域個別ケア会議は、平成29年から実施していた。

通所サービスA型の利用者が多くなってきた。

6か月で卒業  地域の通いの場へ参加
卒業できる人がいない。

通所サービスA型は、社協に委託していて、定員も決まっている。
地域個別ケア会議が、総合事業の利用ができるか可否を決めることが重点の会議になってきた。

本来の会議を開催するよう、包括支援センターから言われていたが
人事で人も変わり、どのように開催したら良いか、開催しようとしても
ノウハウがない。

【第1回会議】令和2年8月28日 岡山市開催 瀬戸内市と合同開催。

- ・瀬戸内市さんの話を伺っていると、包括支援センターとの関係性が重要だと再度認識した。
- ・課題などが、社会福祉協議会と包括支援センターと共通認識できていないことが問題。

【振り返りシート】

- ・地域ケア会議の目的を再認識し、個別ケースの検討をおこなう
- ・行政・社協・包括と一緒に連携し、運営できる体制づくり

岡山県と今後の支援体制について協議

県と協議

令和2年10月23日（金）鏡野町庁舎内

- ・ 今後の支援方法について
- ・ 包括支援センターとの協議

令和2年11月16日（月）鏡野町庁舎内

- ・ 包括支援センター職員と協議
- ・ 現状確認と今後の地域個別会議について

包括支援センターと会議を開催

- 10月から11月に、3回
包括支援センター職員と会議を開催。
- 今回この事業にエントリーした理由
- 今までの現状
- 今後の地域個別会議の方針
- 地域個別会議の位置づけ・メンバー構成

悩むよりもまずやってみよう！

12月8日 地域個別ケア会議 開催

保健福祉課：2名

地域包括支援センター：8名（9名）

Aさん（99歳） 女性 要支援1 長男夫婦・孫の4人暮らし
長男家族は母屋で生活し、Aさんは離れで一人で生活
食事は母屋で一緒に食べる

<経過>

以前は、通所サービスA型を利用していたが、歯の調子が悪く、食事摂取が難しくなり、休まなくてはならなくなった。

現在は、通所サービスA型から従来型通所サービスを利用。
食事が食べれなくなり、入院させてほしいと嫁が医師に相談
長男は脳梗塞を発症し、経過観察中。孫は知的障害で施設通所。

99歳の方が在宅での生活を継続するためにどのような支援が必要か

家族の介護負担は

体重の減少がきになる

いつから食べれなくなったのかなあ

Aさんの気持ちは



家族の気持ちは

- 栄養の改善。デイサービスでの栄養士に相談。
- 家族の介護負担軽減のため、ショートステイを利用。
- 在宅での生活をしていくため、本人の意向・長男夫婦の意向を確認。

地域ケア個別会議を開催してみても

包括支援センターからの意見

- 資料確認、もう少し説明を簡潔に
- それぞれのテーマについて検討を
- 名前、住所を隠す必要があるのか、地域がわからないと地域資源などがわからないので、支援検討が難しい
 - ケアマネの事例検討と一緒に
 - 資料が重複している。
 - 事例を提供する側になったとき、課題を明確しなければならない。
 - 資料だけでは経過がわかりにくい、支援経過は必要。

【第3回会議】 令和3年2月8日 オンライン会議

当日は、地域包括支援センターから5名の職員が出席

田中室長補佐さんのミニ講和

鏡野町の現状・今後について、アドバイスをいただく

出席者からの声

- 会議を開催することが目的ではなく、課題の解決ができる会議にしないと開催が続かない。
- 会議を開催する目的を皆さんと共有していきたい。
- 鏡野町に合う地域ケア会議を共に考えていきたい。
- 個別ケースの検討を積み重ね、見えてきた地域の課題を行政・包括で共有
- 課題を整理し、地域ケア会議で地域課題の検討を行う。一連の流れを理解することができた。

【今後の方針について】

- 個別ケア会議を1回開催することができた。地域包括支援センターと何回も話し合いを設け、他市町村の会議の様子を見学させてもらったりすることができた。
- 問題点は多くあるが、一步を踏み出すことができ、今後は定期的に開催し、地域の課題・資源の把握をおこない、地域ケア会議で協議していきたい。
- 個別ケア会議の結果を分析することで、現在実施している総合事業の内容について、協議をおこない地域で介護予防ができる体制をつくっていきたい。

【今後の目標】

- 地域を巻き込んだ介護予防をおこないたい。
- 社会福祉協議会・包括支援センターと連携し小地域ケア会議・中地域ケア会議が全町で開催できるよう取り組んでいきたい。
- 介護予防のため自治会単位で体操を呼び掛け、全町で実施していきたい。
- 公民館等で住民主体の通所型サービスができるようにしていきたい。
- 社会福祉協議会・包括支援センター・行政と連携し、鏡野町の地域包括ケアシステムを構築していきたい。